

欧州 ～若きリーダーに未来を託す欧州～

経済調査部 主席エコノミスト 田中 理(たなか おさむ)



欧州では30代の首脳が続々誕生

フランスで親欧州・改革派のマクロン大統領が誕生したことで、欧州の政治不安が薄れている。数ヶ月前の騒ぎようが嘘のようだ。懸念された議会基盤の確立にも成功し、フランス経済を長年悩ます失業問題の解決と企業活力の回復に向けて、夏休み返上で取り組む方針を明らかにしている。右派・左派による旧来型のイデオロギー対立を乗り越え、政治刷新を目指すマクロン大統領はフランスの救世主となれるのか、注目を集める。失業問題、難民問題、多発するテロ、欧州懐疑主義の広がりなど、欧州には問題山積だ。マクロン氏は筋金入りの欧州主義者として、盟友ドイツに欧州連合(EU)改革での協力も呼び掛けており、新たな独仏協調への期待も大きい。

マクロン大統領と言え、フランス史上で皇帝ナポレオンの34歳に次いで2番目に若い39歳での国家元首就任と、高校時代の恩師との24歳差婚も話題となった。だが、同氏の年齢に驚くことなかれ。欧州には若いリーダーが多い。EU28ヶ国の現首脳の初回就任時の平均年齢は48歳。マクロン氏を含む6人が30代の若さで国家を束ねる大任に就いたことになる。ちなみに、日本の歴代総理大臣で就任時の年齢が最も若かったのは、初代の伊藤博文で44歳。第二次大戦後では第一次安倍政権の52歳が最も若い。初回就任時の平均年齢は62歳で、60代での首相就任が圧倒的に多い。

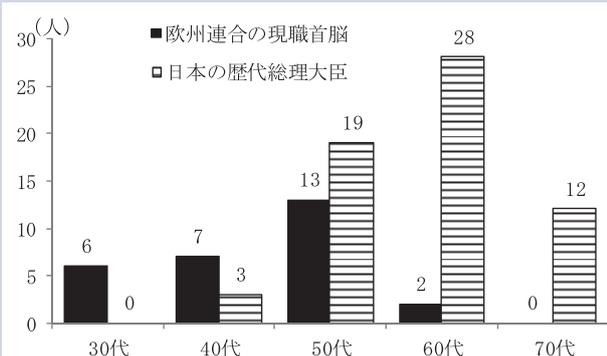
社会の多様性はこんなところにも…

6月に38歳でアイルランドの首相に就任したバラッカー氏も欧州メディアで話題を呼んだ。年齢の若さも然ることながら、同国史上初めて同性愛者であることを公表した首相として、初の移民二世(父親がインド人)の首相としても注目される。アイルランドは人口の8割近くをカトリック教徒が占め、かつては保守的なお国柄で知られていた。1993年までは同性愛が違法とされていたが、伝統的な家族観の変化に対応し、2015年の国民投票で同性婚を合法化した初の国家となった。

ちなみに、ルクセンブルクのベッテル首相は、同性愛者であることを公表した初の現職首脳で、2015年の法改正に伴い男性パートナーと結婚。5月の北大西洋条約機構(NATO)サミットでは、アメリカのトランプ大統領夫人など各国のファースト・レディーと並んで写真に納まり、ファースト・ジェントルマン誕生が話題となった。

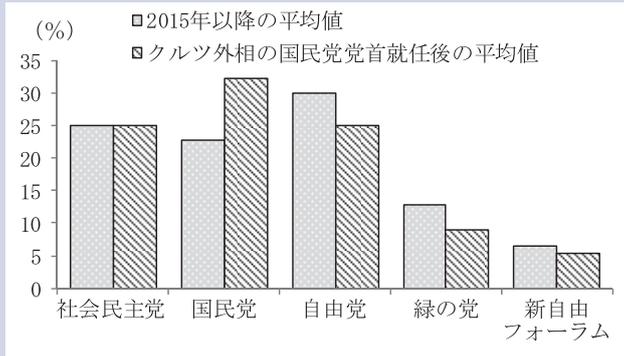
そのマクロン大統領やバラッカー首相よりも、さらに一世代若い首相が、近くオーストリアで誕生する可能性がある。次期首相との呼び声が高いクルツ外相はなんと30歳(秋の選挙時には31歳)。同氏が党首を務める国民党は、10月の議会選で第一党になることが確実視されている。ただ、単独での政権発足は困難な情勢で、場合によっては、旧ナチス関係者も結党に携わった極右政党・自由党が連立政権に加わる可能性がある。

資料1 日欧首脳の就任時の年齢分布



(出所)公表資料より第一生命経済研究所が作成 (注)日欧とも初回就任時の年齢

資料2 オーストリアの政党別支持率



(出所)各種世論調査より第一生命経済研究所が作成